

Review of Operations

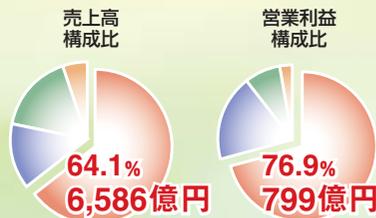
情報機器事業

MFP分野では、カラー、モノクロともに販売は好調に推移。レーザープリンタ分野では、一般企業ユーザに重点を置いた販売に注力。事業全体では、MFP分野の販売好調により売上は前期比9%の増収、営業利益は23%の増益。



- カラーMFP：「bizhubシリーズ」の新製品4機種を投入し、中高速領域に重点を置いた品揃えを拡充。欧州市場を中心に販売は好調に推移。モノクロMFPも堅調に推移。
- プロダクションプリント：高速MFP「bizhub PROシリーズ」2機種を投入し、ラインアップを強化。専任直販組織の強化や有力ディーラーとの協業の推進など、この分野の最大市場である米国に重点を置いた販売体制を強化し、販売台数は伸長。
- カラープリンタ：「magicolor（マジカラー）シリーズ」の中高速セグメントのタンデム*プリンタや、プリンタ・コピー・スキャン・ファクシミリの複合機能を持つ機種を投入。これまで以上に一般企業ユーザをターゲットに、プリントボリュームおよび採算性を重視した販売方針を推進。

*4つのカラー画像を構成する色（シアン、マゼンタ、イエロー、黒）を1回の通紙で印刷するシステム。



オプト事業

TACフィルムの第4工場竣工など生産能力増強に積極的に取り組む。売上高は前期比26%の増収、営業利益は前期比19%増益。

<ディスプレイ分野>

- TACフィルム：需要拡大にともない生産能力を増強。競争激化が進む液晶テレビ用視野角拡大フィルムでは新製品を投入し製品競争力強化。

<メモリー分野>

- 光ピックアップレンズ：現行DVD用光ピックアップレンズは調整期を脱し回復基調。当期後半には次世代DVD製品向けレンズの出荷を開始し、収益回復に貢献。
- ガラス製ハードディスク基板：パソコンや情報家電製品などへの用途の拡大に加えて垂直磁気記録方式への対応が進み販売増。

<画像入出力コンポーネント分野>



ガラス製ハードディスク基板のイメージ図

国内外の有力顧客向けにカメラ付携帯電話用マイクロカメラの出荷が大きく伸長。



メディカル &グラフィック事業

海外販売が好調に推移し、売上高は前期比8%の増収。開発費用増加や銀価格の高騰の影響を受け、営業利益は前期比24%の減益。

<医療分野>

機器およびフィルム販売は、海外で好調に推移、欧州に新たに販売会社を開設するなど販売体制を強化。国内向けは診療報酬改定の影響で伸び悩む。

<印刷分野>

印刷工程のデジタル化にともないフィルム需要が減少するなか、海外販売を強化し、販売ボリューム確保に取り組む。



計測機器事業

売上高 100億円 営業利益 16億円

フラットパネルディスプレイ産業や自動車産業向けに色計測機器の販売が好調に推移。工業・学術分野への三次元計測機器の販路開拓に取り組む。販売会社として独立させた米国、欧州およびシンガポールでの販売が当期より当事業の連結業績に加わる。

産業用インクジェット事業

売上高59億円 営業利益 12億円

高精細プリンタヘッド、布地用大型インクジェットプリンタおよびインクの事業活動を本格的に開始。新規納入先を積極的に開拓し業績は順調に推移。

フォトイメージング事業

売上高477億円 営業損失 8億円

平成19年9月末までに事業活動を順次終了する計画に沿って国内外での終了作業が進行中。カラーフィルムおよび印画紙は段階的に縮小し、本年3月末をもって生産活動を終了。関連する国内外の販売会社・事業所はすべての営業活動を本年9月末までに終了予定。